

先入観を無くし変化を受け入れる



菅沼 こと

コロナ禍も3年半以上が過ぎました。コロナ禍は、世の中の常識をことごとくひっくり返し、世の中全体に変化することを強要してきた出来事です。例えば弊社では、コロナ禍前からテレワーク制度がありましたが、特に私が所属する構造解析センターではテレワークを活用する人は極一部にすぎませんでした。しかし、コロナ禍になり、2020年4月は全員強制テレワーク、その後も、実験する時は出社し、WEB会議やデスクワーク中心の日はテレワーク、というようにテレワークが根付いたものに変化しました。学会行事も、これまでは現地開催が当たり前だったのに対し、2020年からの2年間はほぼWEBでの開催に変化しました。

新型コロナウイルスのように世界規模で大きな変化を強いられることは極稀ですが、日常では様々な変化が起こります。そのような変化が起きた時、いかに柔軟に変化を受け入れるかが重要ですが、変化を受け入れる障壁になっているものの一つに先入観があると思います。仕事をするためには会社に行くべき、実験をする部署はテレワークができない、学会は現地に赴くべき、といったような先入観です。

先入観に関する興味深い記事がありましたので紹介します。2022年2月24日の日経産業新聞に、弊社の人事・総務管掌が執筆した記事が掲載されています。「年齢の先入観をなくす」というタイトルの記事で、その中で紹介されている調査結果で大変興味深いものがありました。デロイト社が2020年に欧州の会社員1万人以上を対象に実施したコロナ禍による社会変化への対応について尋ねた調査です。それによると、回答者の80%が何らかの労働環境の変化を経験したと答えています。比較的大きな変化を感じたと答えた中で、適応が困難であると答えた割合は、30歳未満は52%だったのに対し、60代以上では33%だったそうです。この調査結果に私は大変驚きました。私たちは、高齢者は柔軟性に乏しいと思込でしてしまいます。しかし、この調査結果は、高齢者ほどコロナ禍による変化に柔軟に適応できていたことを示しております。

変化を受け入れるには、先入観を無くす必要があります。その先入観は本当に正しいでしょうか。正しいと信じる先入観を疑い、いかに先入観を無くすことができるかが、変化を受け入れるコツだと思います。

時に変化を受け入れることは辛く苦しいことではありますが、悪い事ばかりではなく、変化を受け入れることにより新しい発見を得ることができます。テレワークが根付いたことで働き方の自由度が上がりました。さらに、学会行事のWEB化においては、WEBで参加できる手軽さを知り、また一方で、現地に行き対面で開催することの貴重さ重要さを心から感じることができました。変化を受け入れることで新しい発見を得ることができると思えば、「変化」は新しい発見が得られる前兆と考えることができます。

この「ぶんせき」誌も2022年3月から冊子体を無くし電子版に移行するという大きな変化がありました。私自身、冊子体が無くなってしまうのは残念な気持ちではありますが、しかし、冊子体の方が良いという先入観を捨て、この変化によって「ぶんせき」誌がより皆様にとって有益なものになるよう、毎月アップロードされるのが楽しみなものになるよう、編集委員として務めてまいりたいと思います。

[Koto SUGANUMA, 帝人株式会社, 「ぶんせき」副編集委員長]